EGGPLANT
ホームスクール通信　エッグプラント
Nファミリー
2009.11.1
No.64

神話か真理か？創世記5

創造科学に関しての第五弾です。創造主が六日間で世界を創造されたと聖書は記していますが、それを現代のクリスチャン科学者たちは次のようにとらえています。

第五日めは、「水生動物と鳥類」の創造です。

「ついで神は、『水は生き物の群れが、群がるようになれ。また鳥は地の上、天の大空を飛べ。』と仰せられた。それで神は、海の巨獣と、その種類にしたがって、水に群がりうごめくすべての生き物と、その種類にしたがって、翼のあるすべての鳥を創造された。神は見て、それをよしとされた。神はまた、それらを祝福して仰せられた。『生めよ。ふえよ。海の水に満ちよ。また鳥は、地にふえよ。』こうして、夕があり、朝があった。第五日。」（創世記一章二十～二十三節）

この地上の動物に関して、鳥が先に造られたと聖書は語ります。現在の進化論では、鳥類は恐竜の子孫と言われています。恐竜と鳥の中間に属するのが有名なのが始祖鳥です。（上図）化石や想像図を何度も目にして、あれは間違いのないものだと多くの人は思っていますが、とんでもない「からくり」があります。

始祖鳥と名付けられた鳥の化石は、次のような特徴のゆえに「中間種と見られる」とよく解説されていますが…。

◇羽の生えている尾に爬虫類特有の長い骨が通っていた。→鳥にないわけではない。白鳥類の尾骨とそこにつく羽毛配列に似ていた。

◇羽毛が生えた前肢には爬虫類のような爪があった。→前足に爪がある鳥は珍しいが、いないわけではない。ツメバケイやエボシドリ類がそうである。

◇爬虫類のように歯のついたあご骨があった。→確かに現生鳥類の中には歯を持つものはない。しかし、化石から見て、古代の鳥には多くの歯があったようである。

これらからわかるように、これらの特徴は鳥類と爬虫類の中間種であるという根拠にはならないのです。さらに

◇一般鳥類の出現よりかなり古い地層から出てきた。→ところが後になって、始祖鳥と同じ年代と思われる地層から、明らかに鳥の化石が発見されたのです。始祖鳥から鳥になったのではなく、始祖鳥は奇妙な鳥の一種に過ぎなかったです。「始祖鳥」と呼ぶこと自体おかしなことなのです。しかし、現在でも堂々と中間種として教えられています。聖書は明確に「鳥は鳥として造られた」と語っています。そして植物のときと同様「種類にしたがって」とあります。遺伝子レベルで共通の種類の鳥がまず造られ、それ以降、多様性が現れたのです。偶然に飛行機はできず、綿密な設計と組み立てを必要とするのであれば、効率の面ではるかに飛行機に勝る鳥たちが偶然に飛べるようになったと考えるのは、すごい「信仰」ではないでしょうか。

もう一つの興味深いことは、「海の巨獣」についてです。これは一体何でしょう。英語の聖書のある訳は「くじら」としています。確かにくじらは最大の哺乳動物です。しかし、原語のヘブライ語「タニン」の本当の意味はよくわかっていないのです。そして、他の個所では「竜、蛇、ジャッカル」などと訳されています。全体から見て「人気のないところに住み、恐ろしく、殺しにくい」というイメージを持つものです。（蛇、ジャッカルといった感じではない？）今日の創造論を信じる科学者は、これは、現在私たちが「恐竜」といっているものと同じではないかと考えています。実は「恐竜」という言葉は十九世紀に作られたもので、それまでは現在私たちが知っている恐竜の存在は知られていなかったのです。ですからその前に訳された聖書に「恐竜」ということばがないのは当然です。「海の巨獣」とは、モササウルス（下のイラスト）などの恐竜タイプの動物ではなかったかと考えられています。

こんなことしました！ 行事報告

十月

二日　クリアン兄来訪（祖父母宅）
十一-十二日　教会で大阪府立少年自然の家へ
十八日　実用英語技能検定三級試験（N）
二十二日　社会見学（コカ・コーラ&寺田屋）
二十三日　Mちゃんお泊まり会
二十四日　日曜学校遠足（奈良公園）
二十七日　お作法教室（いわしの手開き）
二十九日　合同公文教室、落語会（露のききょう）

← 完成！「イワシと野菜のゴマ炒め」野菜との相性抜群でした！

→ すっかり手開きにはまってしまい、家でも作りました。

←コカ・コーラ社会見学

「イワシの手開き」に挑戦！！

H

一年くらい前に作法の授業で「アジの三枚おろし」を教えていただきました。せっかく教えていただいたのに、それっきり魚には手を触れたこともありませんでした。

今回のこの授業は「イワシの手開き」でした。

先生が最初に手本を見せてくださいましたが、頭を切り落とせば、血が出てくるし、内臓を取り出すのもすごく気持ち悪いし、やり始める前はすごい抵抗がありました。しかも先生は素手でそれをやるのです。（さすがに私は素手ですることはできませんでした。）でも、始めてみると思ったより、気持ち悪くも難しくもなく、意外と簡単にできました。アジを下ろしたときは、身もほとんど取ってしまい、食べるところが少なかったのですが、今回は皆上手にでき、先生も褒めてくださいました。

自分がさばいたイワシを使って、「イワシと野菜のゴマ炒め」をつくりました。パプリカ、もやし、青ネギを一緒にいため、練りゴマとオイスターソースなどの調味料を入れると、完成です！！

すごく楽しかったので、この授業の四日後、もう一度家でやることになりました。母が二十四匹もイワシを買ってきたので、それを兄弟五人でさばき（開き？）ました。普段、魚が嫌いな子でも、自分でさばいたものは、やはりおいしかったようです。

貴重な経験をさせていただきました。また機会があれば、他の魚にも挑戦してみたいです。

コカ・コーラ工場見学

M

久々の社会見学で「コカ・コーラ」工場に行きました。

七万人以上の従業員を有すると言われる大企業、その工場の姿は想像していたイメージと大きく違っていました。特にイメージカラーの赤を基調に作り込まれた見学フロアの様子はこれまで見てきた工場との違い、とても驚きました。

見学フロアの一つに「タイムトンネル」というフロアがありました。歴史に合わせてコカ・コーラがどんな宣伝をしてきたか見ることができます。解説を読みながら「ものを売るために宣伝がどれだけ重要か」と実感しました。解説のパネルは、会社がいかにその時代のニーズに合わせ、知恵をしぼって人々の心においしさを訴えていったのかが一目瞭然です。見学が終わった時には、無性にコーラが飲みたくなってきます。「ただの炭酸飲料」と言ってみるとそれまでですが、この一つのジュースを売るためにこれほど多くの知恵と努力が費やされてきたことを見るときに、自分は「どんな人にも必要な聖書の言葉―福音」を伝えるために何をしているのかと問われました。もちろん大企業と個人では話が違います。スケールが違います。それでも、誰もが知らなくてはならないこのグッドニュースを伝えたい…。見学に行っておきながら、我ながらひねくれた感想だなとつくづく思いましたが、これが一番印象に残りました。

編集後記

クリアン兄の英語、キム兄姉たちの韓国語など、外国語のシャワーを浴びて、「外国語をマスターしたい！」という乾きが子どもたちの間で広がっています。ずっと続けばいいのですが…。